(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2014-9488
(P2014-9488A)
(43)公開日　平成26年1月20日(2014.1.20)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
E04B	2/74	(2006.01)	E04B	2/74	561Z	2E014
E06B	3/46	(2006.01)	E06B	3/46		

審査請求 有　請求項の数 5　ＯＬ　（全 5 頁）

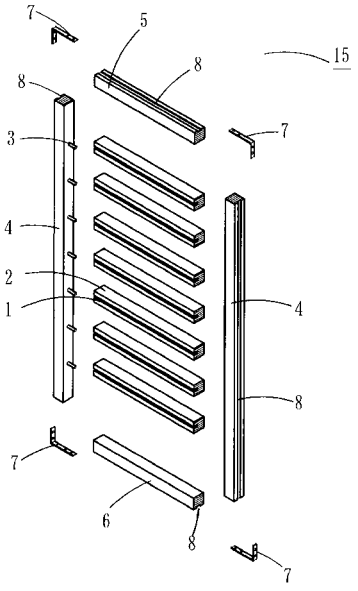
(21)出願番号　特願2012-146361 (P2012-146361)
(22)出願日　平成24年6月29日 (2012.6.29)

(71)出願人　000100698
アイカ工業株式会社
愛知県清須市西堀江２２８８番地
(72)発明者　神田　憲二
愛知県清須市西堀江２２８８番地　アイカ工業株式会社内
(72)発明者　松永　大輔
愛知県清須市西堀江２２８８番地　アイカ工業株式会社内

Ｆターム(参考)　2E014 AA02

(54)【発明の名称】控え壁ユニット及び控え壁構造

(57)【要約】
【課題】表面材を横桟に固定する際に横桟が回転して落ちることがないようにして、控え壁の製作をスムーズに行えるようにする。
【解決手段】縦部材４と、上下の横部材５，６と、横桟２と、表面材９から構成される控え壁構造において、前記縦部材４と上下の横部材５，６とはＬ字型金具７で固定し、横桟２にはダボ係止溝１を形成し、前記横桟２は前記ダボ係止溝１を水平方向にして、ダボ孔が穿設されてダボ３が突出した縦部材４間に横架する。前記縦部材４と前記横部材５，６の外側には前記Ｌ字型金具７が埋設固定される溝８を形成する。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
Ｌ字型金具７で固定可能な縦部材４と上下の横部材５，６と、ダボ孔が穿設されてダボ３が突出した縦部材４間に、ダボ係止溝１が形成され、前記ダボ係止溝１を水平方向にして横架可能な横桟２とからなることを特徴とする控え壁ユニット１５。
【請求項２】
前記縦部材４と前記横部材５，６の外側には前記Ｌ字型金具７が埋設固定される溝８が形成されてなることを特徴とする請求項１記載の控え壁ユニット１５。
【請求項３】
縦部材４と前記横部材５，６の溝８の巾は同一であることを特徴とする請求項２記載の控え壁ユニット１５。
【請求項４】
縦部材４と、上下の横部材５，６と横桟２と、表面材９などから構成される控え壁構造であって、前記縦部材４と上下の横部材５，６とはＬ字型金具７で固定され、横桟２にはダボ係止溝１が形成され、前記横桟２は前記ダボ係止溝１を水平方向にして、ダボ孔が穿設されてダボ３が突出した縦部材４間に横架されてなることを特徴とする控え壁構造。
【請求項５】
前記縦部材４と前記横部材５，６の外側には前記Ｌ字型金具７が埋設固定される程度の溝８が形成されてなることを特徴とする請求項４記載の控え壁構造。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は控え壁、より詳しくは引き戸の控え壁ユニット及び控え壁構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
これまでより引き戸が納められる側には、縦枠、横枠、横桟などの芯材と表面材とから構成される控え壁が備えられており、この控え壁には、横桟を左右の縦枠の間に架け渡して仮固定した後に、表面材が横桟の位置にビス、ネジなどで固定される。
【特許文献１】特開２００５－１３３３１７号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、従来の控え壁においては、横桟はダボ係止溝を下にしてダボに仮固定されているため、片側から表面材を固定しようとしても、横桟の仮固定が不安定でダボを中心にクルリと回転して落ちることがあり、控え壁を製作するのに手間がかかっていた。
【０００４】
また、施工現場で縦枠、横枠、横桟などの芯材の切削加工、ダボ係止溝の切削加工や、これらの芯材の組み付けなど、施工時間を要していた。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明はかかる状況に鑑み検討されたもので、Ｌ字型金具７で固定可能な縦部材４と上下の横部材５，６と、ダボ孔が穿設されてダボ３が突出した縦部材４間に、ダボ係止溝１が形成され、前記ダボ係止溝１を水平方向にして横架可能な横桟２とからなることを特徴とする控え壁ユニット、また、縦部材４と、上下の横部材５，６と横桟２と、表面材９などから構成される控え壁構造であって、前記縦部材４と上下の横部材５，６とはＬ字型金具７で固定され、横桟２にはダボ係止溝１が形成され、前記横桟２は前記ダボ係止溝１を水平方向にして、ダボ孔が穿設されてダボ３が突出した縦部材４間に横架されてなることを特徴とする控え壁構造である。
【発明の効果】

【０００６】
本発明では、ダボ係止溝が形成された横桟を、ダボ係止溝を水平方向にして縦部材間に、ダボ係止溝１を形成していない側から表面材を横桟に横架するため、表面材を横桟に固定する際に横桟が回転して落ちることがない。また、ユニット化されているので控え壁を製作するための時間を大幅に削減できる。以下、本発明を図面に基づいて詳細に説明する。

【発明を実施するための最良の形態】
【０００７】
図１は控え壁の分解斜視図、図２は控え壁ユニット１５の要部分解斜視図、図３は横桟２の斜視図である。

【０００８】
控え壁は上横部材５、下横部材６、縦部材４、横桟２、ダボ３、Ｌ字型金具７、表面材９から構成される。表面材９にはプラスターボードが用いられているが特に限定はない。

【０００９】
ダボ３は木製ダボ、金属性ダボを問わないが、木製ダボを使用することで、表面材を固定するときに初めて垂直が出るようにしている。これは控え壁の芯材が真直ぐはないことがあり、木製ダボは弾性がありこれを現場にあわせて強制できる。

【００１０】
上横部材５の上側、下横部材６の下側、縦部材４の外側には、Ｌ字型金具７が埋設固定されやすく、Ｌ字型金具７の巾、厚みと同程度の巾、深さを有する溝８が設けられている。これにより各部材の組み付ける時間を短縮できるとともに。壁厚方向に生じる施工精度のブレを小さくとどめることができる。

【００１１】
Ｌ字型金具７を固定する位置を上横部材５、下横部材６、縦部材４の外側にすることにより、各部材より構成される四方組み芯材が太鼓状に膨らむ事を抑制することができる。

【００１２】
縦部材４にはダボ孔が穿設されダボ３が突出しており、係止溝１が水平方向に設けられた横桟２が引っ掛かるようになっている。係止溝１を水平方向に設け、ダボ係止溝１を形成していない側から表面材を横桟２に固定することにより、横桟２が回転して落下することがない。また、横桟２は各部材より構成される四方組み芯材が鼓状になるのを突っ張って芯材が変形するのを防ぐことができる。

【００１３】
上横部材５、下横部材６、縦部材４には溝８、横桟２には係止溝１が長さ方向に連続して設けられているため任意の位置で切断しても形状に変わりはなく、施工現場の状況に応じ所望の寸法にカットして用いることができる。

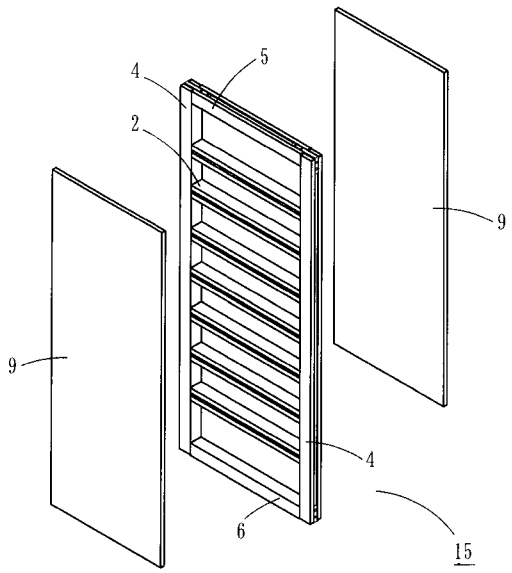
【００１４】
更に、上横部材５、下横部材６、縦部材４の溝８の巾を同一にすることにより、縦、横どちらでも使用できる。

【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】控え壁の斜視図。
【図２】控え壁ユニットの分解斜視図。
【図３】横桟の斜視図。

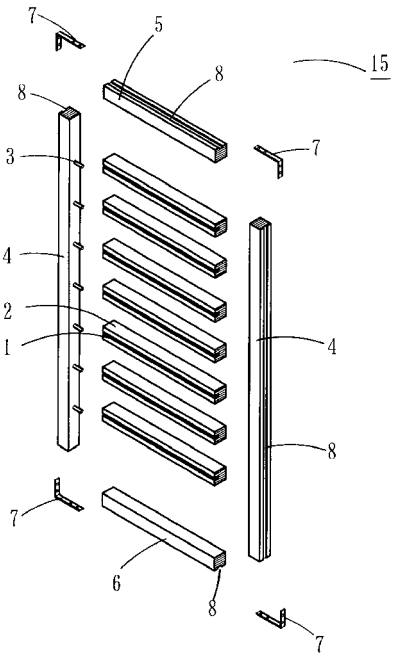
【符号の説明】
【００１６】
１　係止溝
２　横桟
３　ダボ
４　縦部材
５　上横部材

6　下横部材
7　Ｌ字型金具
8　溝
9　表面材
１５　控え壁ユニット

【図１】



【図２】



【図３】

